銀漢亭日録

伊藤伊那男

2月16日（日）▼六時起。まだ暗い。一時間ほど温泉に浸り、夜明の風景を見る。露天風呂に雪が舞い込む。九時過の青い森鉄道で八戸へ。駅で吉田千嘉子さん、岩村多加雄さんの迎えを受ける。二台の車で「三沢市寺山修司記念館」。三十年近く前に来た記憶あり。学芸員の方に一時間ほど説明を受ける。やはり天才。四十七歳の逝去は惜しい。八戸根城跡「根城の広場」へ。中世の城。八戸南部氏の居城跡で良く残っていた！　と嬉しい。雪の中を歩き復元した館などを巡る。「八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館」。ガイドさんの説明を受けながら漆文化や国宝の合掌土偶などを実見し、豊かな文化に圧倒される。丸一日、内容の多い見学をし、「ダイワロイネットホテル八戸」へ投宿。十八時、「ぽてじゅう」という料理屋にて親睦会。「たかんな」吉田主宰、奥田卓司編集長、岩村多加雄、小泉静子さん。奥田氏、会津藩の末裔と知る。あと内輪で「みろく横丁」の屋台で少々飲む。

17日（月）▼六時半、吉田さんの迎えを受けて、「長者山新羅神社」へ。「えんぶり」の奉納神事を見る。三十組ほどの内、十ほどを見て町へ。途中の広場で振る舞い酒に呼び止められて、おでん、甘酒、熱燗を戴く。ホテルをチェックアウトして街中の「一斉摺り」を見て歩く。昼、「八食センター」の「七厘村」へ。鮮魚店で、北寄貝、烏賊その他を買い焼く。日本酒「田酒」がうまい。あと八戸の海へ案内して貰う。目が覚めると種差海岸。冬の怒濤が凄い。「鮫角灯台」近くのソフトクリーム店。「蕪島」の横を通ると火災跡再建の神社。何と、総二階建の奇妙な建物に変わっている！「館鼻岸壁」を見て市内へ。十八時、国の登録有形文化財「更上閣」で「お庭えんぶり」を観覧。屋敷の中から明け放った庭のえんぶりを見る。せんべい汁をいただきながら。何とも贅沢。二十時過の新幹線「はやぶさ」で東京へ。吉田さん他の皆様に感謝！

18日（火）▼コロナウイルスの猛威で、木曜の「銀漢句会」どうするかの判断。心配な人は遠慮なく休んでもらう通知をして、来る人だけで開くことに。「萩句会」「大倉句会」「鷆句会」「纏句会」は休会との報告。店、ホトトギス系の「閏句会」七人。二十一時に閉めて、帰宅すると孫の伶輔（小三）が、劇団四季の「ライオンキング」のヤングシンバ役のオーディション合格と。やった！　けれどこれから猛レッスンが始まるし、大変大変。

19日（水）▼高校同期「三水会」。五人。来年、創設百年祭あと学校統廃合政策により合併、移転の可能性ありと。コロナウイルスの影響あり、客まばら。元野村證券北京駐在の川畑保さん。

22日（土）▼伊那北「同期三人会」（伊那男、井蛙、光汪）久々。十一時、「大宮氷川神社」参拝。「奥信州」で蕎麦の昼食。ここは驚くべき大盛り。円墳のように盛った蕎麦が出る。あと、大宮公園の梅林を抜け、「大宮盆栽美術館」。見事！　東武線にて岩槻。「人形の東玉　総本店」の雛店を見る。岩槻藩校「岩槻藩遷喬館」。儒者児玉南柯は、大奥女中、絵島の血縁。時の鐘を見て「岩槻城址公園」。沼に浮く城であった。「ふな又」にて五句出し句会。鰻を中心とした老舗。大宮に出て駅前の「いづみや」でメの一杯。同行は展枝、小石、うさぎさん。

23日（日）▼伶輔、ＢＳＮＨＫの日曜日の「おとうさんといっしょ」のダンスの振り付けで踊る役の出演依頼きたと。四月号の原稿書く。十六時、新橋の「新橋亭」にて本井英氏の「大磯町鴫立庵」入庵（庵主就任）を祝う会。奥坂まや、井越芳子、小林貴子、窪田英治、仲寒蟬氏などと同じ円卓。紹興酒佳し。料理佳し。

24日（月）▼三月三日の「俳人協会総会」、協会三賞受賞式、親睦会全て中止と。コロナウイルスの影響恐るべしの状況。選句。夜、近所の成城仲間の家でバーベキューパーティー。

26日（水）▼「雛句会」十人。このあと三月にかけての句会はおおむね休会。「伊那北高等学校関東同窓会」の編集部、日野利昭氏、私の紹介記事の取材に来て下さる。

27日（木）▼十四時半、日本橋「ここ滋賀」、毎日新聞の今井、滋賀県柿町氏と四月からの句会打ち合わせ。十六時半、井月顕彰会の面々来店。三月七日の「井月忌の集い」は中止とする。このあと休会の通知作成、発送など井蛙さん大変。店、閑散。

28日（金）▼環順子、片岡啓子さん手伝いに来てくれて、「井月忌の集い」の中止通知何百通か発送。あと一緒に飲む。客無し。来週は（月）～（木）を店休むこととする。

29日（土）▼四月号同人、会員の選句終え、大溝、花果さんに郵送。十七時、新宿区荒木町の「しほ瀬」。三笠書房の押鐘会長のお招きで「ふぐの会」。清人、森平さんと同行。

3月2日（月）▼雨。「彗星集」仕上げて四月号の原稿終了。桃子に頼まれてガーリックライス。春雨のうま煮などを作る。十七時、神保町の居酒屋「兵六」へ入店。一度も行ったこと無く、それならこの機会にと清人さんから誘われたもの。外科医の清水旭峰先生他。やはり名店。あと文壇バーとして名のある「サロン書斎」。ここも初めて。神田に十七年も店を開きながら、このような店を知らずにきたのである。「サロン書斎」には超豪華なカラオケルームもあり、歌う。

3日（火）4日（水）▼終日家。二日酔いあり、休養日とする。夜、雛祭にて孫と一緒にちらしずし、蛤のおつゆ、などなどを作り、祝う。Ｍ・Ｋさんより「銀漢俳句会」への高額の基金戴く。また、高知の文旦も。「慶応俳句丘の会」記念集に三十句と経歴など。「俳句界」六月号に旅吟のポイント五百字送る。唐沢静男句集稿を見る。

6日（金）▼「大倉句会」は中止ながら、有志が集まるということになり、十五人ほど集合し、酒盛りとなる。清人さんから気仙沼の牡蠣到来。

7日（土）▼夜、杏一家来宅。二家族十四人で食事会。鴨鍋など。

8日（日）▼終日家。そういえば、今日は結婚記念日。四十五年前のことだ。原稿あれこれ書く。作句。

9日（月）▼店、数名、二十一時、閉めて、うさぎ、敦子さんと「ふくの鳥」で小酌す。先客一組しかいない。コロナで一句〈咳をしたら判る　伊那男〉

10日（火）▼超結社句会「火の会」八人集合。皆、元気。渡辺花穂句集『夏衣』発送。

11日（水）▼客、清人、アルミさん。二十一時、閉める。

12日（木）▼店、主宰仲間の「白熱句会」休会か否かの問い合わせに出席の声多く、開くことに。水内慶太、檜山哲彦、井上弘美、佐怒賀直美、小山徳夫、木暮陶句郎と私。十句出し。二階で「極句会」も開いており、あと九人店に。

13日（金）▼客、来ても来なくても店開くことに。うさぎ、羽久衣、淳子さん。小川洋さん来てヴーヴクリコ二本開けて乾杯！

14日（土）▼桜開花宣言というが、午後雨が春の雪になる。終日家。龍正君入院。

15日（日）▼終日家、選句。

16日（月）▼岩野歯科。先日、取れた銀の替わりにセラミックを埋める。六万七千円。店、まあ閑散……。

17日（火）▼店、閑散。二十時閉める。

18日（水）▼「俳句てふてふ」へエッセイ千字。蕪村の〈菜の花や月は東に日は西に〉と当時の経済について。